

# Book Review

## 歯科衛生士のための 歯科診療報酬入門 2018-2019

公益社団法人日本歯科衛生士会 監修  
鳥山佳則・石井拓男・武井典子・金沢紀子・吉田直美 編集

Reviewer

住友雅人 Masahito Sumitomo  
(日本歯科医学会 会長)

B5判, 262頁  
定価(本体3,700円+税)  
医歯薬出版刊



### 長い前置きでの推薦図書

私事であるが、大学病院で多くの紹介患者さんを担当させていただいた25年以上も前の話である。ときどき保険医療室の担当者から私に電話連絡が入った。診療内容が保険診療の適応になっていないとのこと。診療録には治療行為をすべて書き込んでいたが、適応になっていない診療行為に対して点数欄に記入しているということである。とりわけペインクリニック領域の治療症例に多かったのだが、ある意味勝手な解釈で点数評価をしていたのだ。当時の私は「歯科点数表の解釈(社会保険研究所発行)」いわゆる青本とは良い関係が構築できていなかった。言葉を変えれば勉強が足りなかったのである。当時は倫理審査も厳しくないうえに、かつ、診療報酬には無頓着で良いという想いで、新しい治療法の開発に取り組んでいた。

その後、病院長に就任し、病院管理者の立場になると、さすがに公的医療保険の診療ルールに気を配るようになったが、青本に執着する人たちを見て、医療が最初にありきというふうには捉えられなかった。その想いをもつ

たまま中央社会保険医療協議会の専門委員に就任したのである。厚生労働省保険局の歯科担当者とも打ち合わせで頻りに顔を合わすようになった。彼らが持参してくる青本は、元の厚みの何割も膨らみ、驚く数の目印のシールが顔を出していた。何度も頁をめくったことが伝わってくる。この努力があったこそ医療保険制度のプロフェッショナルであると実感させられた。診療報酬上の決まりごとについては、「法律から事務連絡まで」の全般的な制度体系の正確な把握が求められる。もちろん保険医療に関わる者たちはそのために、日々の継続的な努力を行っている。

話はまた自分の経験になるが、麻酔研修で医学部の麻酔科に内地留学をした。麻酔の勉強はもちろんであるが、実はそれだけでは麻酔の臨床業務はできないのである。何が重要かということ、手術の対象になっている患者さんの疾患の病態はさることながら、手術の術式を頭に入れておく必要がある。なぜならば、手術の術式に合わせた麻酔操作が求められるからである。もちろん、臨床現場での経験によって進歩はするが、私はまず看護師用の教本からそれらのことを学んだのだ。長年の

持論であるが、たとえ専門医であろうとも、看護師であろうとも、はたまた学生であろうが、一般市民を対象にしたときにも、対象者によって「説明の仕方」は変えても、決して「内容のレベル」を落としたものであってはならないということである。当時の私には、高いレベルの内容を理解するのに一番適当だったのが、看護師の教本であった。

前置きがずいぶん長くなったが、「歯科衛生士のための歯科診療報酬入門」はチーム医療での歯科衛生士としての公的医療保険に関わる診療報酬について丁寧に解説されている。タイトルは「歯科衛生士のための」とされているが、臨床実習生、研修歯科医、若手歯科医師に役立つことは言うに及ばず、医療関係者のどなたもが青本とともに臨床現場で活用すべき教書であると断言できる。一度手に取ると新しい情報についての明快な解説、そして幅広い豊富な内容に驚かれるはずである。診療所が中心である歯科でこそ、実に痒いところに手が届いた秀作である。気持ちを込めて推薦する。